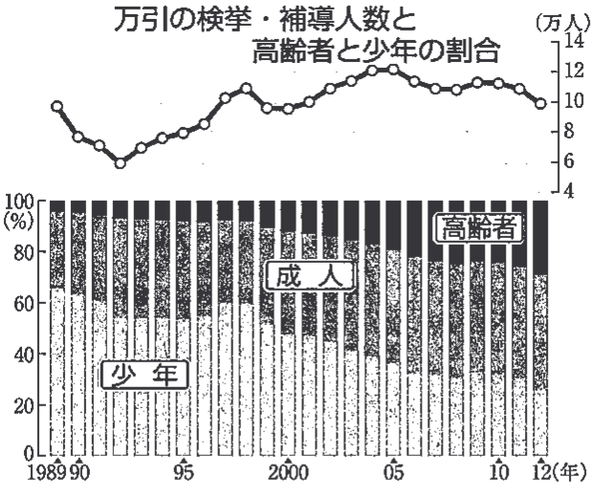
本新聞　（第3種郵便物認可）

高齢者万引 少年上回る

孤独、貧困…揺らぐモラル

スーパーなどで万引をした疑いで2012年に検挙・補導された人のうち、65歳以上の高齢者の割合が3割近くとなり、初めて20歳未満の少年を抜いたことが分かった。警察当局によると、検挙人数の増加は高齢者の人口増加のスピードを上回っており、背景には「生活困窮」や「社会からの孤立」があるという。専門家は「犯罪抑止のためには、高齢者を再び社会参加させる仕組みづくりが必要」と話している。



12年の検挙人数

全体の3割 平成に入り7倍

警察庁によると、万引の疑いで昨年、検挙・補導された人は全国で9万9055人。少年は2010年から減少傾向にあるが、高齢者だけは増加を続け、昨年は28・9%（2万8673人）と少年の25・9%を追い抜いた。

平成に入った1989年は高齢者が4・1%（3987人）、少年は65・9%だった。

福岡県内でも昨年、高齢者の検挙人数の割合が少年を初めて抜いた。1989年には4・5%だったが、昨年は26・6%になったという。

この間、高齢者の人口はほぼ倍増（1990～2010年）したが、万引での検挙人数は7倍超に上昇（1989～2012年）。法務省は犯罪白書（12年版）で、高齢者の検挙人数のうち万引は6割近くに上ると

し「最近の高齢犯罪者の増加の勢いは、高齢者人口の増加をはるかに上回る」と分析する。

高齢者による万引の増加について、警視庁は4年前から実態を調査。昨年4月～今年3月に検挙された人から抽出した479人のうち、4割近くは独居で、再犯も半数を超えていた。

動機については「生活困窮」が最多の32%で、次いで「空腹」（5%）▽「お金を払うのがばからしい」「許されると思った」（3%）―の順。「寂しかった」「孤独だった」との供述もあった。

鹿児島県警が10年に初めて行った万引の容疑者への意識調査でも、高齢者の9割近くが交友関係が「ほとんど無い」「少ない」と回答。同県警は「増加の一因には社会からの孤立があるのではないか」と推測する。

小売りの業界団体のほか、検察OBなどでつくるNPO法人「全国万引犯罪防止機構」（東京）の福井昂事務局長は「万引する高齢者たちは、社会から隔絶された中で、規範意識が揺らいでいったのだろう。罰するだけでは解決しない。高齢者を地域で活用して、居場所をつくることも必要だ」と訴えている。

（吉川文敬）

65歳以上でも…

9割 高齢者の自覚なし

ネット調査

「敬老の日」の対象に自分が該当すると思う65歳以上はわずか1割―。市場調査会社「シニアコム」（東京都港区）が行ったアンケート調査で、そんな高齢者の意識が浮かび上がった。同社担当者は「65歳以上でも、自分を高齢者だと思わない人が多いようだ」としている。

調査は9月、65歳以上の男女を対象にインターネットで実施。528人から有効回答を得た。

その結果、「敬老の日」が自分たち向けの祝日だと思うか尋ねたところ、「そう思う」は3・2%、「ややそう思う」は8・9%だった。「どちらともいえない」は19・3%で、否定的な回答が7割近くを占めた。